

## シンポジウム《ブタは日本を救えるか？》

発表者・コメンテーター・司会 略歴

## \*小林 英司 氏 (こばやし えいじ、自治医科大学客員教授、大塚製薬工場特別顧問)



1982年自治医科大学医学部卒。2001年同大学教授に就任。同大学分子病態治療研究センターと同大学外科の教授を兼務し、基礎的成果を臨床応用に導く研究（トランスレーショナル・リサーチ）に従事。2003年より同大学実験医学センター長に就任。ヒトの先進的医療開発のための前臨床施設として、医療用ブタを用いた研究・開発を行い、クローンミニブタの作出に成功。現在、ブタの体内でヒトの幹細胞を分化誘導させる研究に従事する。専門は、移植・再生医学、バイオエシックス。

## \*片平 清昭 氏 (かたひら きよあき、福島県立医科大学産学官連携推進本部教授)



1969年宇都宮大学農学部卒業、福島県立医科大学生理学第二講座助手。生理学第二講座講師、医学部附属実験動物研究施設准教授を経て、2010年特任教授、実験動物研究施設長。2012年3月定年退任し、4月から現職。1993年8月～1994年3月 Monell Chemical Senses Center (米国)へ留学。公私立大学実験動物施設協議会会長、JAXA 宇宙基幹システム本部動物実験委員会委員、日本実験動物学会動物福祉・倫理委員会委員等を歴任。専門は実験動物学、比較生理学。医学博士。

## \*笠井 憲雪 氏 (かさい のりゆき、東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設客員教授)



1972年北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了、同年北海道大学歯学部助手。1980年～1983年 米国Yale大学医学部研究員。帰国後、北海道大学医学部助手を経て助教授。1994年東北大学医学部教授兼同大学医学部附属動物実験施設長。1999年同大学大学院医学系研究科教授、同医学系研究科附属動物実験施設長、2009年東北大学動物実験センター長（併任）。2012年3月定年退任し、4月から現職。日本獣医学会評議員、日本実験動物医学会理事、アジア実験動物学会連合副会長及び事務局長、日本実験動物技術者協会会員。

## \*國田 智 氏 (くにた さとし、自治医科大学実験医学センター教授)



1986年北里大学大学院獣医畜産学研究科獣医学専攻修了。1992年からYale大学博士研究員を経て、1995年サンド薬品（現ノバルティス・ファーマ）筑波研究所においてトランスジェニック・ブタを使った異種移植の研究に従事。2002年から筑波大学生命科学動物資源センター講師、2011年より現職、マウス・ラット実験施設とミニブタ実験施設を管理運営する傍ら、実験動物の新興感染症研究や動物実験倫理・バイオセーフティなどの学協会活動も展開中。専門は、実験動物学、微生物学。

## \*髙島 次郎 氏 (たけしま じろう、東京財団研究員)



1988年東京大学大学院社会学研究科修了、社会学博士。1990年末より三菱化学生命科学研究所で生命科学と社会の間に起こる問題の研究に従事、熊本大学発生医学研究センター客員教授などを兼務。2007年から自治医科大学客員研究員兼務。生命科学・医学を中心にした科学政策論、科学社会論が専門。著書に『先端医療のルール』『生命の研究はどこまで自由か』『精神を切る手術 脳に分け入る科学の歴史』など。